

塾もまた楽しいもの

岡田千津さん
主婦 五貫島(35歳)



我が家の中学生4年生の息子は、ソロバン塾に通っています。雨の日も風の日もです。学校でサッカー部に入っているため、みんなより帰りが遅くなるので、そっとソロバン道具をカバンの中に忍ばせてやり、6時過ぎにおなかをすかせて帰ってきます。このため、本人も努力しているという気分になるようです。

今では、4ケタの数を2けたの数

で割る、割り算も暗算ができるようになりました。

本人は「これでお母さんより一つ偉くなった」と生き生きしています。

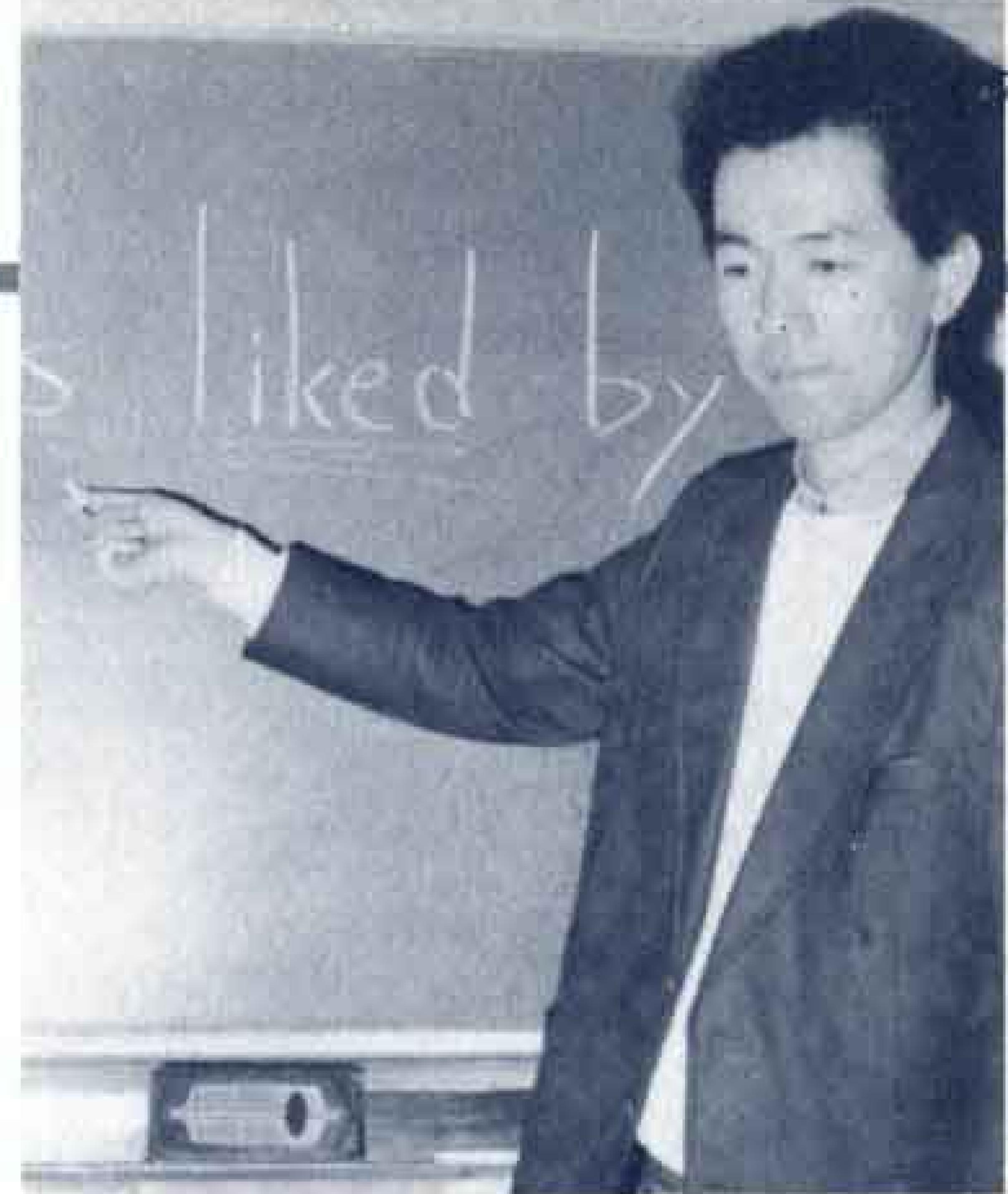
将来、役に立つことはないかも知れませんが、今、試験会場で貴重な体験をさせてもらったり、早く一級をと目標があります。塾という名を聞いただけで、嫌な顔をするばかりでなく、塾通いもまた楽しいと思えれば、それはそれなりにいいのではないでしょうか。

学校の授業を真剣に

勝又恒好さん
塾講師 中野(27歳)

あなたも学習塾に通っていますか。

現在、生徒の7~8割が塾や「家庭教師」という形で、学校の授業以外に勉強しています。でも、本当に塾は必要でしょうか?学校の授業だけではいけないのでしょうか?塾講師の私がこんなことを言うのもへんですが、私は本来塾は必要のないものと思っています。



△塾で教える勝又さん

あなた方が、学校の授業をパソコンの説明書を読んだり、テレビのマンガを見たり、大好きな歌手の歌を聞くように、真剣に聞いてみてください。これが成績アップの一一番の近道ではないでしょうか。

よく生徒から「ことなことは習わなかった」「こんなに詳しく教えてくれなかった」という言葉を聞きます。しかし、教科書やノートを見ると、塾で教えたこととほとんど同じ内容のものが書いてあります。

塾は、応用力をつけたり、つまずいた所を取り戻したりする所で、学校の授業のかわりをする所ではありません。あくまでも学校の授業を真剣に聞いてほしいのです。

自分の家で実践している防火についての気配りや体験、また、失敗例などを取り上げ防火意識の向上を切々と訴えた宮川さんの作品。審査員の心をとらえて見事に市長賞を受賞。「ただ、我が家の体験をそのまま文章にしただけです」と言うが、なかなかの文才の持ち主。作文は比較的得意な



子は、友達同士で批評し合っている。評判はどう?と聞くと、「よく、笑いながら『まあまあのようですね』と答える。学校では、バレー部に所属して活躍している。趣味は、お菓子づくりでつくつたお菓子。そのほか、学校では、パソコンで答える。ほうですと遠くから見て、それが何であるかを想像する。」

「将来は、看護婦さんが、中学生の先生になるのが夢だと言ふ。いいよ三年生に進級し受験が待っている。これから受験のことで悩まされそうとうが、明るいいっぱい、快活なお姉さんでした。」



防火作文コンクールで見事市長賞を受賞。

みやがわさゆり
宮川早由里さん
元吉原中学3年